

	2010年9月	2010年10月	2010年11月	最近の経済動向
世界	-GDP:10年:世界3.5%、日2.5%、米2.9%、EU1.1%、中10% -世界経済後半から減速IMF -レアメタル高騰、中国の生産規制 -半導体、液晶値下がり -世界半導体売上:8月33%増6か月連続+	-世界貿易量:10年:13.5%増50年以降最大 -世界株時価総額2年ぶり高水準 -G20、通貨安競争回避、過度の不均衡是正 -世界M&A:9月55%増3四半期ぶり、7-9月:5.5%増66兆円 -世界パソコン出荷7-9月11%増、半導体9月26.2%増		・中国、インド、NEIS/ASEAN 経済は内需拡大等で成長維持し世界経済を牽引。米、日の先進国経済は新興国への輸出、投資・生産の増加等で緩やかな回復も、消費、輸出に陰り。
日本	-財政・金融:10年物国債一時1.15%、日銀新貸付開始、経済対策9,150億円、事業規模9.8兆円11年度予算 -株価:1日一時8,824円、15日9,541円 -雇用:8月:失業率5.1%、0.1%改善 -物価:8月:消費者1%減、食料、家電 -消費:7日エコカー補助金終了、8月:消費支出1.7%増3カ月+車駆け込み、猛暑、小売業販売4.3%増、自動車、エアコン、新車販売37.7%増補助金終了前、住宅着工20.5%増前年反動3カ月+ -受注:8月:機械38.4%増、前月9.8%増工作機械2.7倍 -生産・販売:ILビータ30ナノDRAM量産(12月)、シャープ電子書籍販売(12月)、8月:鉱工業15.4%増、前月比0.5%減3カ月、乗用車生産19.8%増65.8万台 -貿易:尖閣問題で中国対日レアース輸出規制、通関手続厳格化、15日円一時82円台、8月:輸出15.8%増、輸入17.9%増 -投資・開発:シャープ太陽電池世界最高発電効率、先端電池量産、三洋電太陽電池世界最高発電効率販売、大日本スクリーン消費電力半減LED量産、東電海外事業に10年間1兆円、8月:機械受注民需32.2%増、前月比10.1%増	-財政・金融:日銀追加金融緩和策・政策金利0.1%、国債、社債等5兆円購入、長期金利一時0.82% 緊急経済対策5兆円 -株価:7日終値9,684円、20日一時9,376円 -雇用:9月:失業率5.0%、0.1%改善 -物価:9月:消費者1.1%減 -消費:9月:家計消費支出横ばい、小売業販売1.2%増、新車販売0.1%減、住宅着工17.7%増 -受注:9月:工作機械2.1倍 -生産・販売:9月:鉱工業前月比1.9%減4ヶ月連続-、自動車生産11.4%増 -貿易:9月:輸出14.4%増、輸入9.9%増 -収益:7-9月:純益:上場企業86%増、IT5倍310億円、キヤノン50%増、ホンダ2.5倍、日産4倍1,017億、トヨタ4.5倍986億IHI16倍56億円、最終益:ソニー311億円、三菱電450億円、コマツ9.6倍330億円、4-9月:営業益:日立2,000億円、東芝1,000億円、三菱重2.4倍、三菱電2.4倍、TDK6.7倍、富士通400億円、純益:三菱商8.9%増2,600億円、クボタ33%増、デンソ936億円、最終益:日立1,580億円、12月期:純益:キヤノン8.6%増2,450億円	-株価:8日終値9,780円 -消費:10月:新車販売23.2%減 -貿易:1日円一時80.21円 -収益:7-9月:純益:電機8社1.4倍リマン前超え、自動車98%の水準	(前々月)・GDP4-6月は消費低水準で減速、デフレ傾向。企業業績4-6月急回復。株価は欧州・米国先行不安、円高で低水準もやや上向き。輸出回復が減速。投資回復傾向。所得は緩やかに回復、失業率高水準もやや低下、個人消費は猛暑等で微増も車急減で先行不透明。受注、生産は回復もやや減速。持続的な景気回復、雇用確保が最大課題、円高、車補助金廃止影響懸念 (前・当月)・GDP4-6月は消費低水準で減速、デフレ傾向続く。企業業績7-9月急回復続く。株価はこのところやや上向き。輸出回復が減速。投資回復傾向。所得は緩やかに回復、失業率高水準もやや低下、個人消費は猛暑等で微増も車急減で先行不透明。受注、生産は回復もやや減速。持続的な景気回復、雇用確保が最大課題、円高、車補助金廃止影響懸念
アジア・大洋州	-GDP:10年:アジア8.2%、中9.6%、韓6%、台7.7%、ネシア6.1%、タイ7.1%、インド8.5 -株価:7日全面高、26日アジア新興国株急伸 -中国:ハイオ、新工ネ等戦略の新興産業育成、8月:輸出34.4%増、輸入35.2%増、対中直接投資1.4%増、消費者物価3.5%、不動産価格9.3%鈍化 -台湾:TSMC太陽電池増産、8月:輸出27%増、海外受注23%増、15年:車大手10社EV量産 -韓国:サムスン11年設備・研究開発投資2.2兆円15%増、12年迄100万台増産、13年EV増産、8月:鉱工業生産前月比1%減、輸出29.6%増、 -ASEAN5か国:8月:新車販売台数27%増 -フィリピン:8月:新車販売35%増 -タイ:8月:自動車生産52%増、消費者物価3.3% -インドネシア:8月:輸出30%増、車販売35%増、消費物価6.4% -インド:0.25%利上げ年6%、11日株価2年8カ月ぶり高値、タタ車開発・増産3年間1,600億円、8月:鉱工業生産5.6%増伸び率鈍化、新車販売33%増、輸出13.2%減、輸入34.3%増、卸売物価8.5%増	-中国:0.25%利上げ、貸出金利5.56%、9月:輸出25%増、輸入24%増、車販売16.9%増、工業生産13.3%増、不動産価格9.1%増、失業率4.1%、7-9月:GDP9.6%(1-9月固定資産24.5%増、小売18.3%増)、純益:レノボ44%増、BYD99%減、 -台湾:9月:鉱工業生産12.2%増、輸出17.5%増、海外受注16.7%増、7-9月:純益:ホンハイ25%増、宏達95%増、エイサ24%増、TSMC17%増、UMC65%増、アスース27%増、友達98%減 -韓国:韓・EU・FTA署名、現代自HV量産、LGディスプレイ有機EL、現代重太陽電池投資、9月:鉱工業生産前月比0.4%減、設備投資同3.6%減、輸出17.5%増、新車12.9%減、1-9月:プラント受注4.2兆円昨年上回る、7-9月:GDP前期比0.7%増、純益:起亜66%増、営業益:サムスン15%増3,500億円、ハイニックス4.3倍、現代自38%増、LG電子130億円赤 -タイ:株価最高値、9月:輸出21%増、自動車生産37%増、消費者物価3%増、10年:GDP7.3~8%増、 -ベトナム:7-9月:GDP7.2%景気回復・個人消費好調、1-9月:消費者物価8.6%増 -インドネシア:7-9月:GDP5.8%増消費、投資、輸出 -インド:9月:新車販売29%増、消費者物価5.8%増	-中国:10月:輸出22.9%増、輸入25.3%増、新車販売25.5%増 -台湾:10月:輸出21.9%増 -韓国:10年:サムスン設備投資10%増1.43兆円、 -タイ:10月:消費者物価2.8%増 -ベトナム:1%利上げ政策金利9%へ -インドネシア:10月:消費者物価5.6% -インド:株価最高値2年10ヶ月ぶり、10月:新車販売34%増28万台	(前々月)・中国は固定資産投資・生産・消費・企業収益高水準、輸出好調で経済拡大続く。韓国、台湾は輸出・生産・投資、企業業績好調、GDPも高水準。シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピンも車等内需、輸出好調でGDP高水準回復。インド経済好調持続。持続的成長が課題。インド、インドネシア、ベトナム等でインフレ懸念 (前・今月)・中国は固定資産投資・生産・消費高水準、輸出も好調で経済拡大続く。韓国、台湾は輸出・生産・投資、企業業績やや減速も好調維持、GDPも比較的高水準。シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピンも内需、輸出好調でGDP比較的高水準。インド経済好調持続。持続的成長が課題。インド、インドネシア、ベトナム等でインフレ懸念

北米	<p>-景気: 経済減速の兆候広がる</p> <p>-財務・金融: 追加経済対策 インフラに4兆円(道路補修、鉄道建設、空港補修)、研究開発減税(10年間で8.4兆円)、投資減税(11年末までの投資を一括償却)、FRBゼロ金利維持、長期国債低下2.51%</p> <p>-株価: 15日1万526ドル</p> <p>-雇用: 8月: 失業率9.6% 0.1ポイント悪化</p> <p>-所得: 8月: 個人所得前月比0.5%増</p> <p>-消費: 8月: 個人消費前月比0.4%増、小売売上高3.2%増9カ月連続+、耐久消費財前月比1.3%減、新車販売21%減、卸売売上高前月比0.6%増、住宅着工前月比10.5%増、中古住宅販売前月比7.6%増</p> <p>-生産: 8月: 鉱工業前月比0.2%増6ヶ月+</p>	<p>-GDP: 7-9月: 前期比年率2%増、5四半期+、個人消費2.6%増、設備投資9.7%増</p> <p>-景気: 経済活動緩やか、総じて成長続く</p> <p>-財務・金融: 追加緩和策実施(国債49兆円購入)、財政赤字10年度105兆円過去2位</p> <p>-株価: 7日1万967ドル、21日1万1,104ドル</p> <p>-雇用: 9月: 失業率9.6%横這い、9.5万人減少</p> <p>-物価: 9月: 卸売4%増</p> <p>-消費: 9月: 個人消費前月比0.2%増、小売売上高7.3%増、前月比0.6%増、卸売売上高12.4%増、新車販売28.5%増、前年9月の反動、住宅着工前月比0.3%増3カ月+</p> <p>-受注: 9月: 耐久財受注前月比3.3%増</p> <p>-生産: 9月: 鉱工業前月比0.2%減1年3か月ぶり-、</p> <p>-貿易: 9月: 輸出17.4%増</p> <p>-収益: 7-9月: 純益: 主要500社24%増4四半期+、前期より鈍化、GE18%減、1,620億円、IBM12%増2,900億円、アップル70%増3,500億円、インテル59%増30億ドル、TI60%増700億円、マイクロソフト51%増4,400億円、ケルグ32%増、AMD1.2億ドル赤、フォード69%増1,400億円、GM1,600億円、キャタピラ96%増7.9億ドル南米、アジア</p> <p>-投資: インテル次世代半導体6,500億円、フォード低燃費技術</p>	<p>-株価: 5日1万1,395ドル</p> <p>-雇用: 10月: 失業率9.6%横這い、非農業雇用前月比15万人増</p> <p>-消費: 10月: 主要小売業1.6%増11ヶ月+、新車販売13.4%増95万台</p>	<p>(前々月)・GDPは4-6月迄4期連続+。大幅な財政赤字。株価は欧州信用不安、米先行き不透明も微増。企業業績7-9月迄4期二桁増。輸出は復調。失業率高水準横這い、個人消費は上向き傾向、車販売減速、住宅は復調の兆し。投資は回復傾向。受注・生産も回復傾向に陰り。高水準の失業率、財政赤字拡大が懸念材料。景気回復、雇用確保が課題</p> <p>(前・今月)</p> <p>・GDPは7-9月迄5期連続+。大幅な財政赤字。株価は上向き傾向。企業業績7-9月迄4期二桁増。輸出は復調。失業率高水準横這い、個人消費は上向き傾向、車販売前年反動増、住宅は復調の兆し。投資は回復傾向。生産の回復傾向に陰り</p> <p>高水準の失業率、財政赤字拡大が懸念材料。景気回復、雇用確保が課題</p>
欧州	<p>-GDP: 10年: ユーロ1.7%、独3.4%、仏1.6%、英1.7%</p> <p>-財務・金融: アイルランド財政赤字拡大対GDP比11-20%</p> <p>-雇用: 8月: 失業率ユーロ10.1% 0.1ポイント上昇</p> <p>-消費: 8月: 新車販売: ユーロ13%減、独27%減、仏7.9%減、英17.5%減</p> <p>-受注: 8月: 製造業前月比1.8%増</p> <p>-貿易: 8月: 輸出: 独26.8%増</p>	<p>-GDP: 7-9月: 英前期比年率3%増4四半期+</p> <p>-財務・金融: 欧州中銀政策金利1%据置</p> <p>-消費: 9月: 新車販売: 欧州10%減、独18%減10カ月連続-、仏8.2%減、英9%減、伊19%減、スベ27%減</p> <p>-収益: 7-9月: 純益: フィリップス3倍590億円、フィアット8.1倍190億円、最終益: ダイムラー29倍1,800億円中国、北米で高級車、VW12倍2,400億円ユーロ安、ボルボ28.7億€、ノキア600億円</p>	<p>-消費: 10月: 新車販売: 独20%減25.7万台</p> <p>-投資: BMW・EVに460億円投資13年発売</p>	<p>(前々月)・GDPは輸出主導で回復傾向。欧州信用不安で株価低迷。企業業績は回復傾向。輸出増加傾向。投資低迷も将来投資有。失業率最悪の水準、車販売は4月以降マイナス、個人消費は低迷。受注、生産は回復傾向。景気回復、雇用確保、ユーロ防衛が課題</p> <p>(前・今月)・GDPは輸出主導で回復傾向。欧州株価低水準。企業業績は回復傾向。輸出増加傾向。投資低迷も将来投資有。失業率最悪の水準、車販売は4月以降マイナス、個人消費は低迷。受注、生産は回復傾向。</p> <p>景気回復、雇用確保、ユーロ防衛が課題</p>
中東ア	<p>-サウジアラビア: 斗山火力発電所受注2,900億円</p>	<p>-サウジアラビア: GE火力発電受注580億円</p> <p>-UAE: 住商・韓国電発電事業1,500億円</p>		<p>・主要国経済は資源価格の上昇で回復傾向。一方、太陽光、原子力、電力、石化プロジェクト活性化。イラク・アフガンの情勢の安定化、景気回復が課題</p>
中南米	<p>-ブラジル: 8月: 自動車販売21.2%増31万台</p>	<p>-ブラジル: 株価2年ぶり高値</p>		<p>・ブラジル経済は景気回復、株価上昇もインフレ・利上げで冷却化。メキシコ経済も急回復。持続的成長が課題。</p>
露東欧	<p>-ロシア: 8月: 新車販売51%増16.8万台5が月+、1-8月: GDP3.7%増、10年: 4~4.4%原油、自動車、設備投資</p>	<p>-ロシア: 1-9月: GDP3.4%増</p>	<p>-ロシア: 三菱重・日産・中国企業、肥料工場受注850億円</p>	<p>・ロシアは石油価格の回復、新車販売、投資等内需中心に経済回復。持続的回復が課題。</p>